

礼文の森から

宗谷森林管理署
礼文森林事務所



レブンアツモリソウに関する報告



礼文島固有の希少植物レブンアツモリソウは、島の重要な観光資源の一つに数えられます。

平成31年2月14日に開催された平成30年度北の国・森林づくり技術交流発表会（於 北海道大学）の発表課題のなかで、明治大学商学部3名により「レブンアツモリソウおよび礼文島に関するアンケート調査」の結果が発表されましたので概要を報告します。

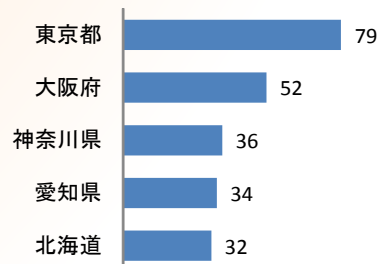
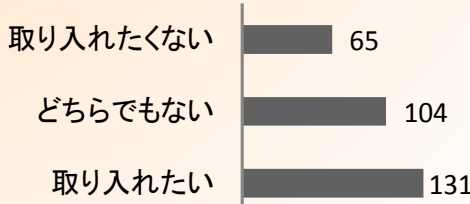
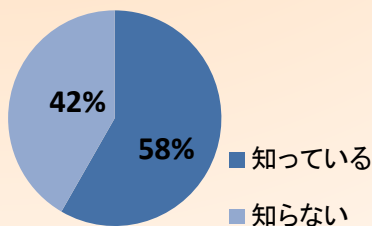
レブンアツモリソウおよび礼文島に関するアンケート調査



平成30年10月に全国の18歳以上300名を対象に「礼文島を知っているか否か」のアンケート調査を実施した結果、過半数の175名（58%）が「知っている」と回答しています（図-1）。

「レブンアツモリソウを礼文島の観光目的に取り入れたいか」を併せて調査したところ131名（44%）が「取り入れたい」と回答しました。一方「どちらでもない」「取り入れたくない」と回答した者の合計が169名（56%）にも上ったため、レブンアツモリソウの魅力をもっと情報発信する必要性について言及しています。（図-2）。

平成30年5～6月にかけて礼文島を訪れた観光者546名にもアンケートを行い、その出身地を調査しました。結果、1位東京、2位大阪、3位神奈川、4位愛知、5位北海道という結果が得られました（図-3）。少数ではドイツやアメリカの出身者もいましたが、現在の観光者の大多数は国内出身との結果が分かりました。



（図-1 礼文島の認知率）

（図-2 レブンアツモリソウを観光に取り入れたいか）

（図-3 観光者の出身地）

（「木のない森づくり」による経済ロジック～自然保護と観光効果～）鈴木弥来,新倉寿人,宮本優輝）

背の高い木はレブンアツモリソウを被陰する要因であり、木々が成長した自生地では発芽数が減少しているのも事実です。本発表は“木のない森づくり”と題され、レブンアツモリソウが増えることによる観光・経済効果が示されました。

礼文森林事務所では、関係者と十分検討した上でレブンアツモリソウの保護・増殖に尽力する所存です。礼文島の貴重な観光資源であるレブンアツモリソウをこの先、何十年、何百年先も成育できる環境に努めますので、引き続き皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。